

令和元年 7月 29日

東員町議会 総務建設常任委員会

委員長 大谷 勝治 様

東員町議会 総務建設常任委員会

委員 水谷 喜和

研 修 報 告 書

研修期間	令和元年 7月 22日 (月) ～ 7月 23日 (火) 【 2日間】
研修 (視察) 先	熊本県益城町 熊本県熊本市
目的 (テーマ等)	災害によるライフラインの普及について (益城町) 水源かん養地対策についての取組み (熊本市)
資料添付の有無	有 ・ 無

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。



益城町 研修当日、大雨洪水警報発令にて研修不能。

熊本市

熊本市議会事務局調査課 下錦田 英夫

環境推進部 水保全課 緒續美智子 大津山 幸祐 首藤 美佐

74万市民の水道水源の全てを賄う「地下水都市としては日本一、世界でも希少な都市。約100万人の人々が暮らす「熊本地域」においても、水道水源のほぼ全てを地下水で賄っており、広域的な地下水保全に取り組んでいる、全国でも非常に珍しい地域である。熊本城を築いた加藤清正は、地元で「ザル田」であった白川中流域に大規模な水田開発を行った結果。水田から大量の水が地下に浸透し、熊本地域の地下水はますます豊富になった。地下水に恵まれた熊本地域が、都市化の進展やコメの生産調整などによって、かん養域が減少傾向にある。また、一部の地域で硝酸性窒素の濃度の上昇が見られ、量・質とも課題を抱えている。

地下水を守る

・地下水を守る保全活動の歴史と今

地下水近くの高層住宅団地建設計画を機に、地下水に対する関心が高まり、昭和51年「地下水保全都市宣言」、翌年に「熊本県地下水保全条例」、平成19年に条例の全面的に改正し、水質・水量の両面から保全と節水社会の形成を図る総合的条例とする。

・地下水を守る

毎年約250本の井戸で地下水質を測定し地下水浄化等の保全対策を推進している。特に、硝酸性窒素削減計画に基づき、関係者と連携を図り、施肥や家畜排泄物などの対策に取り組んでいる。

・地下水をつくる

白川や緑川など河川上流域で水源かん養林の整備に取り組み、地域の重要かん養域である白川中流域では、地元農家の協力を得ながら、転作田を活用した水田湛水事業（熊本市・大津町・菊陽町・水循環型営農推進協議会）で助成事業を実施している。

・節水

市民総参加で取組む節水市民運動を行っている。平成30年度までに市民一人一日当たりの生活用水使用量を218ℓまで削減することを目標としている。

くまもと水守

・くまもと水守

水や水文化を守ったり、魅力をPRしたりする人材を「くまもと水守」の愛称で登録し、人材育成や情報提供を行っている。